

日本PTA全国協議会特別推薦
 厚生労働省社会保障審議会推薦
 あしたが続くと

信じてる。

爆心 長崎の空

日向寺太郎監督作品

原作：青来有一「爆心」(文春文庫刊)

第43回谷崎潤一郎賞／第18回伊藤整文学賞

長崎の人は、
 60年以上いろうんなモンは
 背負うて生きてきた。
 そうやって繁いだ命は、
 絶やさんようにとだけ
 考えてきたと。そいけん、
 こん街でこれからも
 生きていきたか。



北乃きい 稲森いずみ

柳楽優弥／北条隆博、渡辺美奈代／佐野史郎

杉本哲太 宮下順子 池脇千鶴 石橋蓮司

題字・金子兜太 音楽・小曾根貞 主題歌二ひまわり(ユニバーサルミュージック) 脚本・柳ゆき
 製作・鈴木タカシ プロデュース・沢田順 脚本・藤田裕文 監製・川上晴彦 照明・川井健 録音・橋本泰夫
 美術・丸尾昭行 装飾・山崎正 装飾・山口昌信 助監督・松尾昌 制作担当・中村野也 衣裳・宮本ま莉
 ヘアメイク・前田英志子 スチール・蓮崎晋宏 協力・長崎県・長崎市・文藝春秋 助成・金文化芸術振興費補助金
 製作・パル企画・メディア・アパテクトリー／日本スカイライン・長崎放送／長崎ケーブルメディア 配給・パル企画
 2013年7月4日公開／DVD・Blu-ray Disc

官公庁DVD定価 100,000円(税別)

<http://www.bakusin-movie.com>



母から娘へ、娘から母へ
いのち
想いを、生命を繋げる物語。



芥川賞作家であり現・長崎原爆資料館館長の青来有一氏原作「爆心」（谷崎潤一郎賞／伊藤整文学賞）を、実写映画「火垂るの墓」で高い評価を得た日向寺太郎監督が映画化。6つの作品からなる連作短編小説をもとに、母を亡くした子と、子を亡くした母の二人の物語を1本の糸を紡ぐように構成し、キリスト信仰が根ざす被爆地・長崎に暮らす人々のごく当たり前だけどかけがえのない暮らしに差し込む一筋の希望を描く感動の物語です。ピアノが奏でる美しい旋律は、日本を代表するジャズピアニスト・小曾根真の音楽。本作で初めて映画音楽を担当する。同様に映画のために初めて詞を書き下ろした印象的な主題歌「ひまわり」を唄うのは、ソウルシンガー・小柳ゆき。そして、主人公・清水を演じるのは若手実力派女優・北乃きい。幼い娘を亡くした母・砂織役を稲森いずみ。「すべては海になる」以来待望の映画出演となる柳楽優弥。さらに、杉本哲太、佐野史郎、宮下順子、池脇千鶴、石橋蓮司らスタッフ・キャストとも豪華な顔ぶれが集結した。戦後68年の被爆地・長崎から今の日本へ届けたい、再生への想い。



たくさんの命が失われた長崎爆心地周辺のこの街で今を生きる人々が巡りあい、それぞれの過去を受け入れ、あたらしい一歩を踏み出す再生への8月9日をむかえようとしていた。

坂の上の団地に住む長崎大学3年生の門田清水は、父母と平凡だが幸福な日々を過ごしている。陸上部で汗を流し、医学生生の光太とのデートを楽しむ日々。将来のことは漠然としているが、何の不安もない、明るく純粋な少女だった。ある日、母とケンカしたその夜、母が心臓発作で亡くなった。あまりの突然の出来事に、清水はその死を受け入れられない。母からの電話を無視した罪悪感に押しつぶされそうで、言いそびれた「ごめん」を言葉にすることもできなかった。一方、高森砂織はまもなく娘の一周忌をむかえるが、一人娘を失った悲しみを癒せないでいる。砂織の実家は、300年続くカトリックの家だった。母・瀧江と父・良一は、孫の死を「神の思召し」と考え、試練を乗り越えようとしてきた。ある日、砂織の妊娠が発覚する。また子供を失うのではないかと恐怖と、生みたいという思いで混乱する砂織。夫の嗜好は、やり直そうと砂織を励ますが、砂織は、なぜ沙耶香を失ったのかという思いに心を支配されていく。やがて、砂織と清水は浦上天堂近くで導かれるように出会う。二人は共に大切な人を亡くしたことを知り、互いに欠けたものを求めるように心を通わせる。閉ざしたふたりの心は、明日という未来へすすむことができるのか…。



北辰映像株式会社

埼玉県さいたま市緑区三室2190-2

TEL 048-810-5277 〒336-0911

09:00-19:00 (土曜・日曜・祭日)